名城大学機械会誌

発行所
名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地
名城大学理工学部機械工学科内
名城大学機械会
TEL〈052〉832－1151（代）
FAX〈052〉832－1235
URL:http://meijo-kikaikai.jp/

名城大学機械会　第65回総会中止のお知らせ

機械会会員の皆様におかれましては、このコロナ禍にあって大変なご苦労をされていると拝察しお見舞い申し上げます。

さて、その新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和4年6月12日に予定されていました理工同窓会総会の中止が4月下旬に決定されました。ゆえに同日に開催を予定しておりました機械会第65回総会は、やむをえず中止を決定致しました。

本来総会で会員諸氏の出席のもと審議すべき議題、今年度の機械会の事業など多くの議案がございますが、中止により実施できなりました。このことから、急遽機械会評議員会を開催し、総会における審議事項を機械会評議員会で審議を行いました。

今年度の機械会の事業については、この評議員会での審議の結果に従い進める事といたしますのでご了承願いしたくお願い申し上げます。

尚、評議員会の審議の内容については、本誌P12に掲載しましたのでご確認願います。

まだ、新型コロナウイルス感染症は収束の兆しが見えません。会員の皆様にはくれぐれもご自愛ください。

名城大学機械会 会長　大野　達也

名城大学正門アプローチ　令和4年4月

大変だった一年

名城大学 機械会　会長　大野　達也
昭和58年卒

機械会会員の皆様方におかれましては、「コロナ禍」の中、元気にお過ごしと思います。一昨年、機械会の会長に指名を頂きましたが、この状況の中、思うように機械会としての活動が出来ず、大変心苦しく思います。

この一年、世の中では様々な事が起きたと思います。機械会会員の皆様方におかれましてもコロナウイルスのまん延による緊急事態宣言への対応をはじめとした、旅行、外食等の自粛、テレワーク等による在宅勤務の増加など従来では予測できなかったような状況であったと思います。しかしながら、その状況に対応してきたことも事実です。

うれしいニュースもありました。令和３年に開催された、杜の都駅伝（大学女子駅伝）、富士山女子駅伝それぞれ、私たち母校の名城大学が５連覇、４連覇と輝かしい実績を残し、卒業生として爽快な気持ちを頂き、来年度も楽しみになりました。更に、自分たちが学んだ天白キャンパス、４号館の隣に今年３月、新しく研究実験棟Ⅳが竣工しこれから更に充実した教育環境が出来たと思います。

さて、機械会においても、従来の評議員の方々による委員会活動、学校行事の中止等により、多くの活動行事を中止いたしました。卒業生への卒業パーティーも中止となり、パーティー補助から記念品の補助へ変更しました。

昨年の理工同窓会および機械会の年次総会も中止となり、緊急役員会での審議を行いました。令和３年の機械会の活動がほとんど、休眠状態のようになり卒業生の皆様に対して、多くの活動が出来なかった事が心残りとなりました。令和４年の活動においては、世の中がどのような状況になるかは不透明ですが、出来る限り以前以上の活動が復活できるように考えています。

また、機械会会員多くの方々の支援、ご鞭撻、ご協力は必要不可欠です。様々なご意見を頂きたいと思います。そのためには機械会のホームページにアクセス頂き「お問い合わせ」に多くの意見を頂きたいと思います。SNS全盛の時代、卒業生の方々のお意見を頂き交流を図り各会員同士の交流の在り方、会員へのサービスの在り方等を見直ししていきたいと思います。更には、皆様の機械会の、評議員会、機械会総会に是非ともご参加いただき、同窓会活動を身近なものにして頂きたいと思います。特に、平成卒業・令和卒業の会員の方々の参加を期待しています。

まだまだ大変な時代は続くと思いますが、皆様方からの機械会活動を盛り上げるのたくさんのご支援をお願いするとともに、会員および会員ご家族の皆様、大学従事者の方々、在校生の皆様の益々のご活躍・ご発展とご健勝をお祈り申し上げて挨拶とさせていただきます。

■■■■■ 機械会からの重要なお知らせ ■■■■■

「名城大学機械会誌」の送付について

機械会では、毎年発行している会誌を平成28年度より、機械会ホームページにて印刷出力可能な様式で公開しております。

機械会誌56号は、52号送付時に同封しました「郵便はがき」で、引続き会誌送付を希望された会員の方々に、機械会誌を発送いたしました。

「郵便はがき」を返送する機会を逸した会員の方、新規に会誌送付をご希望される方は直接機械会事務局または、機械会HPの問い合わせページから、「機械会誌の送付」とご記入のうえお申込みください。

学科長挨拶

機械工学科
学科長　松田　淳

今年度も引き続き学科長を担当致します松田です。機械会の皆様におかれましては益々ご健勝でご活躍のことと存じます。また平素は機械工学科の種々の活動にご協力並びにご支援を賜り、感謝を申し上げます。今年は102名の学生が卒業し、新たに機械会正会員に加わりました。今年度は、松原先生の御着任と新研究実験棟IVの竣工が主なトピックスとして挙げられます。これらを含めた機械工学科の近況を以下で簡単ではありますが報告させて頂きます。

材料強度分野の教授として、本年4月1日より松原剛先生をお迎えし、学科教員は15名の体制となりました。松原先生は企業の研究開発部門で長きに亘りご活躍されてきたことから、これまでの企業経験を活かした今後の教育研究活動の御展開が期待されております。松原先生の御経歴等詳細は、着任挨拶のページをご覧頂ければと存じます。

前述の如く松原先生の御着任により学科の教員は15名となりましたが、アブラハ先生が昨年9月から在外研究でアメリカに1年程度滞在予定となっており、少なくとも今年度前期は一時的に14名での運営となります。このように、今年度特に前半については、依然として人的配置に余裕の無い状態での学科運営となることを機械会役員の皆様におかれましてもご理解を賜ることができればと存じます。

本年3月に天白キャンパス内旧4号館の一部跡地での建設工事が漸く完成し、研究実験棟IVが竣工致しました。この棟には、機械工学科を含む2、3、12号館の研究室が主に移転しました。昨年度末、修士論文公聴会や卒業研究発表会と前後して、大規模な移転作業が実施され、本稿執筆時点では、開梱作業や実験装置の再稼働に向けた準備が慌ただしく行われているところです。本年度以降は新棟で運営することになります。旧3号館にあった実習工場は新棟地下1階に移転し、理工学部テクニカルセンターの名称で運営される予定です。機械会会員の皆様にとって慣れ親しんだ2号館3号館からの移転は、やや名残惜しい部分はあるかと存じますが移転後は塩釜口の地下鉄駅から近くなりました。コロナ禍が落ち着いたら、お時間のある時にキャンパスをご来訪頂ければと存じます。

機械会におかれましては、本移転に際して、一方ならぬ援助を御検討頂いていると伺っております（本稿執筆時点）。お陰様で、今後の実習用工作機械の充実や従来懸念されてきた実習時の安全対策等、安全で充実した実習科目実施の目処を立てることができそうです。この場をお借りして、機械会の皆様に厚く御礼を申し上げたいと存じます。今後も、学科教員一同教育研究活動に邁進する所存でございます。

機械工学科の入学定員は変わらず125名ですが、引き続き文部科学省からの定員厳守の指導があり、入学者数を定員に近づけることに大変苦労しております（定員に対する過不足の許容範囲は定員の±10%以内）。本年度入学生向け入試においては、入試方式の大幅な変更が断行されたり、大学入学共通テストの過去に例を見ない程の難化による余波という悪条件が重なり、これまで蓄積されてきたデータが当てにできなくなるという事態でした。このような手続き率予測が困難な状況に加えて建物移転に関連する作業も重なった大変な環境にも挫けずに、入試判定に多大な労力を割いて頂いた入試委員の先生方にはこの場をお借りして敬意を表します。

一昨年度来のコロナ禍に当たり、多くの大学行事が中止もしくは実施方法の変更を余儀なくされております。ここ2年ほどの感染対策のための制限の中、担当の先生方のご努力により、感染防止策を講じた上で卒業研究発表会や修士論文公聴会を開催し、昨年度も何とか無事に卒業、修了させることができました。今年度も未だ予断を許さない状況ではありますが、卒業研究発表会、修士論文公聴会を実施して無事に卒業、修了させたいと願っております。

以上、雑駁ではありますが、学科の近況について紹介させて頂きました。今後も機械会会員の皆様方からの変わらぬ御支援を賜ることができればと存じます。よろしくお願い申し上げます。

2021年度の就職状況

機械工学科　就職･進路支援委員
大島　成通

2021年度は、2020年度に引き続きコロナ禍の影響を受けた年であったと思われますが、一方で、コロナ禍への対応に学生も企業も慣れてきた面もあったと思われます。選考前では、Webによる会社説明会や1Dayインターンシップ等が当たり前のようになり、学生も多くの企業の説明会に時間やコストをかけずに参加できるようになりました。また、インターンシップ等への参加者には早期選考の案内があるなど、選考の早期化と、ジョブマッチング化もすすんだ年ともいえるのではないでしょうか。そのような状況にいち早く対応できた学生とそうでない学生に、内定獲得の時間差が生じ、内定獲得時期の二極分化がこれまで以上に見受けられました。また、2021年度は、コロナ禍を学生が意識しすぎたせいもあってか、大手企業に挑戦する学生がやや減少した年度となったように感じられました。

一方で、面談に訪れる主に中小規模の企業の担当者様からは、「現在のような状況だからこそ、これまで大手企業に流れていた機械工学を学んだ人材を採用するチャンス」と捉えて、「できれば名城大学機械工学科の卒業生を採用したい」との多くのコメントを頂きました。このように経済の見通しが厳しい状況においても、幅広い業界において機械工学技術者が求められており、本学科はそのような人材養成機関として社会的に期待されていることが伺えます。本学科がこのように社会的に高い評価を頂けるのも、ひとえに本学科卒業生の皆様のこれまでの御活躍による賜物と考えられます。学科就職担当教員として学科を代表してここに感謝申し上げます。

コロナ禍の厳しい就職戦線であったにもかかわらず、2021年度就職希望者の就職内定率は大学院、学部共に100%即ち就職希望者全員の進路が決定されました（実就職率は、それぞれ100%、98.3%）。就職先は、大部分が製造業であり、自動車関連業種、工作機械メーカー等への就職が目立っております。また、大学院への進学者は42名（昨年度34名）でした。大学院進学率で見ると、2021年度は41%（昨年度26%）であり、当学科の平均的な進学率（概ね20%から30%の間）に比べやや高い傾向となりました（理工学部の2021年度の平均は23.5%）。この傾向は、コロナ禍を避けるための一時避難的な増加であるとも思われますが、より多くの学生が大学院へ進学し、高度な学問を身につけた上で将来に亘って高度技術の最前線で活躍頂くことを強く期待します。

現下のような厳しい環境下においても社会から必要とされる機械技術者たる人材を輩出することが当学科の責務と捉え、それに向けて教員一同今後も努力を続けていきたいと決意を新たに致しております。

最後に主要な就職先企業を掲載すると共に、機械会の皆様には今後も変わらぬ御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

「大学院」
東芝プラントシステム株式会社、ＣＫＤ株式会社、浜松ホトニクス株式会社、京セラ株式会社、宮崎精鋼株式会社、ＳＭＣ株式会社、株式会社トヨタシステムズ、タカラスタンダード株式会社、株式会社フォーラムエンジニアリング、株式会社ダイフク、神鋼造機株式会社、フタバ産業株式会社、ネットワンシステムズ株式会社、住友電装株式会社、三菱電機株式会社、日東工業株式会社、芝浦機械株式会社、オムロン株式会社、株式会社アイシン、トヨタ紡織株式会社、大同メタル工業株式会社、
大学院進学：名城大学大学院・理工学研究科・機械工学専攻・博士後期課程

「学部」
ＪＦＥ商事電磁鋼板株式会社、ＫＹＢ株式会社、ＰＬＡＮＳＥＥＤ株式会社、ＴＧテクノ株式会社、イイダ産業株式会社、イビデン株式会社、エンケイ株式会社、カシオ計算機株式会社、ジャパンマテリアル株式会社、トヨタテクニカルディベロップメント株式会社、トヨタ情報システム愛知株式会社、トヨタ紡織株式会社、トライス株式会社、フジパングループ本社株式会社、フジ精密株式会社、フタバ産業株式会社、ミネベアミツミ株式会社、ミヤマ工業株式会社、メルダスシステムエンジニアリング株式会社、旭鉄工株式会社、株式会社ＦＵＪＩ、株式会社アイシン、株式会社アクティス、株式会社オーツカ、株式会社キラヤ、株式会社クオリ、株式会社ケィテック、株式会社ダイフク、株式会社タグトータル、株式会社ダッド、株式会社タマディック、株式会社デンソーエレクトロニクス、株式会社トヨトミ、株式会社ニデック、株式会社ネクステージ、株式会社フジキカイ、株式会社マキタ、株式会社メイドー、株式会社愛工機器製作所、株式会社荏原風力機械、株式会社協成、株式会社大原自動車学校、株式会社日産オートモーティブテクノロジー、株式会社豊田自動織機、岐阜愛知電機株式会社、住友電装株式会社、住友理工株式会社、松本テクニコ株式会社、太平洋工業株式会社、太平洋精工株式会社、朝日インテック株式会社、東海旅客鉄道株式会社（ＪＲ東海）、日本電産モビリティ株式会社、敷島製パン株式会社、豊生ブレーキ工業株式会社、豊田鉄工株式会社
大学院進学：名城大学、名古屋工業大学

着任ご挨拶

機械工学科
教授　松原　剛

令和4年4月1日付で、機械工学科の教授に着任致しました松原剛と申します。簡単ではありますが、名城大学機械会の皆様方に着任のご挨拶を申し上げます。

私は、3月末まで輸送機器メーカの研究所で29年間、疲労強度設計法および輸送機器やそのパワーユニットの開発を行ってきました。開発した製品は、航空機、ヘリコプター、モーターサイクル、新幹線、船舶など数多くの輸送機器となります。各種製品においては想定されるお客様が異なり、また、お客様が異なれば商習慣も異なり、非常に多くの経験をさせていただきました。さらに、この数年は設計法の開発だけでなく、将来の社会、例えば、循環経済、空飛ぶ車等が普及する社会においては、どのような社会システムが構築されているかなどを予測して、そこから想定される製品や技術、さらにはビジネスを検討するような仕事も行ってきました。その検討の際には、ビジネスコンサルとのお付き合いや、数多くの大学との共同研究も行ってきました。そのため、一つ一つの経験は特筆すべきものはないものと思いますが、これだけ多くのことを経験している技術者も比較的珍しいのではないかと思っております。そこで大学においては、このような経験から得られた知識や開発姿勢などについて、学生から求められるものがあれば応えていきたいと思っております。

ところで、私は企業で勤めていた際にも大学の先生とのお付き合いがあり、企業での勤務が長い割に自分が学生だった頃の記憶も比較的残っているように思います．そこで、本誌では機械会の諸先輩方に、学生当時の記憶を思い出していただければと思いまして、私の考える大学4年生、大学院1年生、2年生の所属する研究室生活についての在り方を書かせていただきます。

私自身もそうでしたが、名城大学機械会の諸先輩方も大学3年生までは、機械工学科に在籍している思いが薄かったのではないでしょうか。大学の講義が、高校の授業の延長上にあり、大学とはこんなものか、と思われていたのではないでしょうか。その思いと成績の良し悪しは別の話ではありますが。私も非常に成績の悪かった記憶があります．ところが、4年生となり研究室に所属した時点で、専用の机、今はPCを割り当てられて、大学内に自分の居場所ができたことに大いに喜びを感じたのではないでしょうか。春先の勉強会の頃は実感がわきませんが、徐々に研究室の仲間との仲が良くなっていくこともあり、自然と仲間意識が出来上がっていたように思います。そして、実験や計算を始めた頃には、今まで生きてきたものとは異なる何かを感じ始めたのではないでしょうか。それは、学生にとって人生で初めとなる新しい価値を生む行為となります。技術者にとって，お金を稼ぐための対価として当たり前でもある新しい価値を生み出す行為ということになります．学生にとっては，初めてのことなので何で面白いのか、何が面白いのか，すぐに理解はできませんが、何かを感じ始めるものと思います。研究室生活とは，価値を生む行為の練習，社会人になる前のお仕事の練習と私は理解しています。このようなことは、卒論が進み始める11月や12月に気付き始めるので、大学院に進学しておけば良かったか、などの迷いも生じるものと思います。学生は、このような面白さを感じながら、社会で働くためのビジネスマナーや製品開発のための姿勢などを、少しずつ身に着けていくのではないかと思います。そのため、学生時代に厳しい教官に指導されると社会で働くための訓練を急速に身につけられているとも理解できます。厳しい教官の教え子達から、教官への苦情が出ないのは、社会人になってからのほうが遥かに厳しい経験をしていくことになるためと思います。

私としては、自分の多くの経験を学生さんに還元できれば良いと思っています。また、会社での若手社員を指導した際に感じる以上の急激な成長を目の当たりにできれば、非常に楽しい日々が始まるのではないかと思っております。

最後になりましたが、至らぬ点も多々あることと存じますが、名城大学の教育・研究および社会活動に少しでも貢献できるよう尽力していきたいと思っております。機械工学科および関係者の皆様方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

OB近況報告

クロタ精工株式会社
代表取締役　鈴木　泰博

1.　はじめに

1981年卒業の鈴木泰博と申します。1958年6月生まれ63歳戌年のふたご座です。卒論は江上ゼミでゼミの仲間は先輩含め13名（現在は12名）で年2,3回飲み会を行っています。卒業して41年が過ぎますが未だにゼミ仲間で飲み会が出来ることに感謝しています。

仕事の内容に入る前に趣味について書かせていただきます。40歳のころ尿酸値が高いということでビールを控えるように言われワインを飲み始めました。以前からワインを飲んでいましたが、ワインはお酒では珍しくアルカリ性飲料で、ワインのことを知っていると少し恰好がいいかなということで趣味にしました。ワインが好きだということでワイン会やレストランのプレオープンなどに呼ばれて、日常ではあまり出会わない人との出会いを経験できました。今後もワインを通じて人との出会いを大切にしていきたいと考えています。音楽は中学生の時から松任谷由実を聞いていて未だにコンサートに行っています。スポーツはゴルフで年20回ほどコースに出ていますが、スコアは伸び悩んでいます。また、今年は久しぶりに海でジェットにも乗りたいと思っています。

2.　仕事について

卒業後すぐにクロタ精工株式会社に入社しました。クロタ精工は昭和38年3月にクロダイト工業株式会社のシェルモールド部門を新たに立ち上げ、製造販売するために設立された会社です。入社時の社員数は30名ほどでしたが現在は120名ほどになっています。本社は碧南にあり本社工場、安城工場、豊田市の鋳物メーカーの場内工場の3拠点です。

材料は珪砂と樹脂を混ぜ合わせた物で使用量は約1,200トン／月ほどです。製品はシェルモールド中子で主に鋳造品の空間部分を作るために使用されています。製造方法は予熱した金型に材料を吹き込み珪砂にコーティングされた熱硬化性の樹脂で珪砂を金型の形状に固めて作ります。

製造を長く担当して営業を5年ほど行った2009年末に社長であった兄が病気で他界したため、その時から社長をさせて頂いています。営業部長も兼務していますので普段はお客様を訪問したりしています。

社長に就任してすぐに東日本大震災が発生し多くの人々や工場などに被害が出ました。自動車関連の工場も同様でいろいろな鋳造メーカーと代替生産の対応などを行いました。2012年はタイの洪水で鋳造工場が水に浸かってしまい生産ができないため、急遽金型を作り日本で代替生産を行いました。時間がないため普段では使わない材質で金型を作ったため中子が生産できず苦労しました。2017年にも熊本で地震が起き同様な対応しました。

BCP（事業継続計画）は作っていましたが、不十分であるため今年新たに作り直しました。以前からの活動ですがISO9001は2005年にISO14001は2008年に認証取得して現在も続けています。2008年に愛知ブランド企業認定して頂き、経済産業省から「元気なモノ作り中小企業300社」に選定されました。最近ではSDGs宣言、カーボンニュートラル対応について検討を進めています。

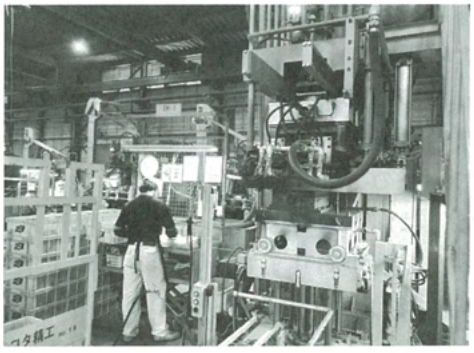
3.　経営者として

私が気をつけていることの一つですが、地方で会社を経営していくためには地域や社会への貢献が大変重要な要素で、ボランティアなどを含めた活動が必要と考えています。碧南市には、消防、防災、交通などのボランティア組織があり他にも沢山の組織があります。私は親の影響で27歳のころから交通指導員というボランティア活動していて現在も続けています。立場や環境で活動できないこともありますが、個人の名前での活動も経営者として必要であると思っています。

4.　おわりに

自動車業界の100年に1度の大変革による鋳物部品の減少や多くの自然災害の中、会社を継続していくためにすぐには答えが出ませんが、多くの情報を得て進む方向を間違えないように考えていなければなりません。多くの人からの意見も聞き柔軟に対応しようと考えています。

取り留めのない文章でお恥ずかしいですが、後10年ほど仕事、ボランティア、趣味などを楽しみながら活動していきますのでご一緒になることがありましたらよろしくお願い致します。



第15回機械会受賞のことば

アブラハゼミ
天弘　篤秀

この度は機械会賞という栄誉ある賞を頂けたこと大変光栄に感じております。大学入学以降、日々コツコツと継続してきた事がこのような形で評価していただけたこと大変嬉しく思います。思えば、高校生の頃にはろくに勉強もせず毎日遊んでいた私が日々の勉学を継続できた大きな理由の一つとして友人の存在があるように思います。授業の内容や課題で理解が難しかった部分について友人と時には何時間にもなる電話でともに話し合っていたことをよく覚えております。大学生活でこのような友人を持てたことはとても幸運な事であったと思いますし、今後もこの縁を大事にしていきたいと思います。また、私が今回このような賞を頂けたのは、友人だけでなく学生の理解が深まるように工夫を凝らした授業をしてくださった機械工学科の先生方、研究において親切にご指導、助言をして頂いた研究室の先輩方、アブラハ教授のお力添えをあったからこそと思います。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。大学4年生に入ってからの研究では、自らの知識不足だけでなく、問題解決のための情報を探し、整理し、それを伝えることの大切さ、難しさを日々痛感しております。また共に研究させて頂いている社会人の先輩の仕事の速さや物事の考え方、捉え方は今後社会の役に立てる社会人にならなければならない私にとっては、大きな刺激となりました。社会に出ていく直前にそのような先輩と共に研究できる事を幸運な事と捉え、少しでも近づいていけるよう精進していきたいと思います。また、大学に通って何かを学ぶべきか迷い燻っていた私に対して、根気強く相談に乗り大学に送りだし、大学生活を支えてくださった両親には感謝してもしきれません。まだまだ至らぬ私でございますが、大学院に進学した後も今回頂いた賞に恥じぬよう勉学、研究に一層励む所存ですので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。名城大学機械会の今後の益々のご発展を心よりお祈り申し上げて受賞の挨拶とさせて頂きます。

機械会賞の第10回から14回の受賞者

第10回　平成28年度	
氏　名	所属研究室
石田　幸也	清水ゼミ
小川　尚馬	久保ゼミ
加藤　凌	成田ゼミ
山本　紘暉	池本ゼミ
吉田　康宏	小島ゼミ

第11回　平成29年度	
氏　名	所属研究室
新實　和真	來海ゼミ

第14回　令和2年度	
氏　名	所属研究室
神谷　友彰	清水ゼミ

第12回　平成30年度	
氏　名	所属研究室
天野　竜太	來海ゼミ
五藤　彰広　（特別賞）	成田ゼミ
北本　真一朗（特別賞）	アブラハゼミ
山本　紘暉	池本ゼミ
吉田　康宏	小島ゼミ

第13回　令和1年度	
氏　名	所属研究室
中嶋　優人	中西ゼミ

トピックス

理工学部機械工学科の髙橋さんが日本設備管理学会東海支部学生研究発表会で最優秀研究奨励賞

受賞者　髙橋　勝也さん（理工学部機械工学科４年、成田浩久教授研究室）
受賞名　一般社団法人日本設備管理学会東海支部　令和３年度学生研究発表会　最優秀研究奨励賞
受賞日　2022年２月22日
受賞テーマ
エンジニアリングプラスチックの二次元切削における切削力と仕上げ面粗さ

本研究では、代表的なエンジニアリングプラスチック（以下、エンプラ）の中からPBTとPOM、UHMWの３種類に対し、二次元切削を行い、被削材の材料特性や切削速度、工具すくい角、切込み深さなどの切削条件が、切削力と仕上げ面粗さに与える影響を明らかにした。解析結果から、①仕上げ面粗さをよくするためには、すくい角を大きく、切削速度を小さく、切り込み深さを小さくすること、②切削力を小さくするためには、すくい角を大きく、切削速度を大きく、切込み深さを小さくすること、③PBTの切屑が他のエンプラの切屑よりも大きく変形していた。これは熱変形温度が低いPBTだけが切削時に発生する熱の影響を受けていること、④被削材のヤング率によって切屑の生成に違いが見られ、ヤング率の小さいエンプラほど流れ形になりやすいこと、⑤エンプラは金属材料よりも大きなすくい角で切削をすることが望ましいこと、が分かった。
この発表が設備管理・ものづくり分野に関する優れた研究発表として認められました。

研究実験棟Ⅳ竣工

研究実験棟

2022年３月に研究実験棟Ⅳが竣工しました。

東門南側に建設され、鉄筋コンクリート造・鉄骨造、地下１階地上７階、建築面積2429㎡、延床面積１万6176㎡。理工学部の研究室、実験室、演習室などとして使用されます。

３号館の実習工場の設備は地下１階のテクニカルセンターに集約されます。

第14回機械会杯ゴルフ大会開催のご案内

拝啓　会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
さて、機械会会員相互の交流を図ることを目的に、学内の先生方にも参加いただき「名城大学機械会ゴルフ大会」を下記の要領にて開催いたします。

1　日　　時　2022年8月27日（土）　8時10分までにパター練習場付近に集合
　　記念写真撮影・連絡事項　8時30分からアウト・イン同時スタート
2　場　　所　伊深の森カントリークラブ
3　住　　所　岐阜県美濃加茂市伊深町2345　TEL 0574-29-1891
4　会　　費　プレー代　11,740円前後（個人精算）
　　（昼食＋3ドリンク付・パーティ：1ドリンクのみ）
　　参 加 費　1,000円（パーティ会場で徴収します）
5　競技方法　ダブルペリア方式：打数制限（ダブルパーまで）HC上限36
　使用ティ：　70歳以上はシルバー　・　一般は白
　ニアピン：　6・8・11・15　　ドラコン：　4・18
　6インチプレース・カップインは必ず実施すること。OKパットはなし。
6　賞　　品　機械会からの支援金があります。
7　参加人数　8組（32名）
8　申し込み　メール又はFAXにてエントリー願います。
9　締め切り　定員になり次第、締切りします。

担当：大野・森澤

第13回機械会杯ゴルフ大会　参加の皆さん　2021年8月28日

宛先　名城大学機械会　　FAX　0568-81-8639

機械会　ゴルフ大会　　参加エントリーします。

	お名前	連　絡　先（住所） 電話番号（携帯）・FAX	卒業年度 生年月日

申込締切日：予定を組み入れ、早めの予約をお願いします。

【問合わせ先】Tel 090-5115-6472　Fax：0568-81-8639【機械会：森澤　厚（S45）】
：　E-mail：＜　morisawa@ukai-s.co.jp　＞

令和３年度　名城大学機械会事業報告（案）

令和３年度の事業経過は以下の通りです。

１．臨時役員会の開催（出席者９名）
　・日時：令和３年５月29日（土）17：00～
　・会場：ホテル名古屋ガーデンパレス

２．名城大学機械会誌第55号を発行し、機械会ホームページに掲載
　あわせて、正会員の郵送希望者および準会員（在校生）へ配布

３．令和３年度卒業生102名へ記念品を贈呈
　（卒業記念パーティー中止のため、パーティーへの援助を記念品の贈呈に変更）

４．令和３年度機械会賞をアブラハ研究室・天弘（あまひろ） 篤秀（あつひで）君へ授与
　（機械会特別賞については応募者なし。）

５．第13回機械会杯ゴルフ大会
　開 催 日：令和３年年８月28日（土）
　コ ー ス：伊深の森カントリークラブ
　参加人数：24名
　優　　勝：酒井義和 氏（昭和42年卒）

６．理工学部新研究実験棟竣工に伴い、設計室・製図版収納棚の寄付
　（令和４年２月25日）

なお、当初令和３年度事業計画案として上記事業の他、下記内容の実施を計画しておりましたが昨年発行の機械会誌第55号にて報告致しましたとおり、新型コロナウイルスの影響を鑑み、令和３年５月に開催した臨時役員会で実施中止の決定を致しましたことを改めてご報告致します。

※中止となった事業案

１．令和３年度第64回総会
２．評議員会・役員会（通常開催分）
３．賀詞交歓会
４．名城大学機械会杯 ＆ 機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助
　（ソフトボール大会未開催のため）
５．機械工学科教員と機械会役員との懇談会
６．各研究室のゼミ長と機械会役員との懇談会
７．在校生を対象としたキャリア事業
８．機械工学科外部評価委員会の活動への参画
９．理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加

令和４年度　名城大学機械会事業計画（案）

本会会則に掲げる本会の目的達成に必要な事業を行うほか、本年度は特に次の事業を中心として活動する。

１．令和４年度第65回総会
　・日時：令和４年６月12日（日）9：00～
　・会場：名城大学共通講義棟南館S402講義室

２．評議員会・役員会

３．名城大学機械会誌第56号を発行し、機械会ホームページに掲載
　あわせて、正会員の郵送希望者および準会員（在校生）へ配布

４．名城大学機械会杯＆機械工学科長杯争奪ソフトボール大会への援助

５．令和４年度卒業記念パーティーへの援助

６．機械工学科教員と機械会役員との懇談会

７．各研究室のゼミ長と機械会役員との懇談会

８．在校生を対象としたキャリア事業開催

９．機械工学科卒業生への機械会賞及び機械会特別賞の贈呈

10．機械工学科外部評価活動への参画

11．第14回機械会杯ゴルフ大会の開催
　日　時：令和４年８月27日（土）
　コース：伊深の森カントリークラブ

12．機械工学科への支援

13．理工同窓会および各学科同窓会主催行事への参加

14．その他、本会の目的達成に必要と認められる行事

令和3年度　名城大学機械会　会計報告案

（自　令和3年4月1日　至　令和4年3月31日）［単位：円　消費税込み］

	科目	予算	決算	備考
収入の部	前年度繰越金	196,667	196,667	
	新入会員会費	1,040,000	990,000	令和4年3月卒業生 99名分
	理工同窓会援助金	220,000	236,200	助成金
	繰入金	0	0	
	雑収入	3	0	寄附，利息等
	合計	1,456,670	1,422,867	
支出の部	会誌発行費	348,000	381,502	第55号印刷等
	行事費	600,000	297,495	卒業記念品代等
	会議費	250,000	38,075	臨時役員会（1回）　＊交通費含む
	事務費	60,000	0	事務用品，印刷費等
	HP/ｳｴﾌﾞｻｲﾄﾒﾝﾃ費	133,000	132,920	HPﾄﾞﾒｲﾝ・ﾒﾝﾃﾅﾝｽ関連
	運営資金積立金	0	0	
	予備費	65,670	275,165	＊新研究実験棟Ⅳ製図室に関する援助費
	計	1,456,670	1,125,157	
	次年度繰越金	0	297,710	
	合計	1,456,670	1,422,867	

・運営資金積立金現在高
15,387,736 円

・名城大学「機械会賞」基金
2,001,420 円

（令和4年 3月 31日 現在）

会計監査報告
種々調査の結果、収支ともに相違なきことを証明します。

会計監査　中村達郎　㊞

水野謙治　㊞

令和4年度　名城大学機械会　予算案

（自　令和4年4月1日　至　令和5年3月31日）［単位：円　消費税込み］

	科目	予算	備考
収入の部	前年度繰越金	297,710	
	新入会員会費	1,060,000	106 名［令和5年3月卒業予定者］
	理工同窓会援助金	220,000	下部組織助成金
	繰入れ金	2,400,000	＊運営資金積立金より繰入れ
	雑収入	0	寄付，利息等
	合計	3,977,710	
支出の部	会誌発行費	348,000	第56号印刷，機械会封筒代，郵送代
	行事費	600,000	学生行事援助等
	会議費	250,000	評議員会，役員会，編集会議，各種委員会等
	事務費	60,000	事務用品，はがき，郵送費等
	HP/ ｳｴﾌﾞｻｲﾄﾒﾝﾃ費	133,000	HP/ ｳｴﾌﾞｻｲﾄﾒﾝﾃﾅﾝｽ保守費用
	運営資金積立金	0	
	予備費	86,710	他同窓会交流会祝儀等
	機械工学科支援費	2,500,000	＊機械工学科に対する援助費
	合計	3,977,710	

令和4年度第1回評議員会のご報告

日 時：令和４年６月４日（土）18:00～
場 所：校友会館第一会議室

理工同窓会より、令和４年６月12日に予定されていました名城大学理工同窓会総会は、新型コロナウイルス感染の懸念が払しょくできないため中止との連絡がありました。
これに伴い、同日に予定しておりました第65回名城大学機械会総会は、開催中止といたしました。
そのため、本来総会で審議すべき議案については、本評議員会にて審議いたしました。
以下、その議案の審議結果をご報告いたします。

1. 令和４年度第65回機械会総会の開催について（大野会長）
   理工同窓会総会は、新型コロナウイルス感染状況を考慮して４月下旬に中止が決定されました。同日に開催を予定していた機械会第65回総会についても、総会出席会員諸氏への感染リスクを考慮し、本年度の総会は中止といたしました。
   総会中止についてはすでに機械会ホームページで告知いたしております。
2. 第65回機械会総会の審議事項について
   総会で審議予定であった下記議案については本評議会で審議のうえ、承認を頂きました。
   (1) 令和３年度事業報告
   (2) 令和４年度事業計画案
   (3) 令和３年度会計報告
   (4) 令和４年度予算案
   (5) 役員・評議員について
3. 令和４年度の事業計画に関する報告
   ２項の議題で審議した令和４年度の事業計画は、当初本誌10ページ掲載の事業の実施を計画しました。しかしながら未だ新型コロナウイルス感染が収束に至らないため、下記事業についてはすでに中止が決定いたしました。
   (1) 令和４年度第65回総会
   (2) ソフトボール大会援助（ソフトボール大会が中止のため）
   その他事業については、実施の方向で検討。
   但し、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する場合も有ります。
4. 機械会誌第56号について。
   例年の５月発行を予定しましたが、総会中止に伴い昨年同様６月末の発行となりました。
5. 役員・評議員について
   現状選任がない平成28年以降の卒業生の評議員については、学内の先生方にご協力をお願いし、順次選任を進めることとします。

以上